

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	愛知県	市町村名		大学名	
派遣日時	令和7年10月10日(金曜日) 13:00~16:00 13:30~13:35 冒頭挨拶・講師紹介 13:35~14:55 竹山アドバイザーご講義 14:55~15:05 休憩 15:05~15:40 研究協議(竹山アドバイザーご対応) 15:40~15:55 協議まとめ(竹山アドバイザーご助言)				
実施方法	派遣 / 遠隔 ※いずれかに○をつけてください。				
派遣場所	愛知県総合教育センター (愛知県愛知郡東郷町大字諸輪字上鉾68番地)				
アドバイザー氏名	竹山 哲司 (東京都立六郷工科高等学校多文化共生推進部主任)				
相談者(受講者)	外国人生徒支援を担当する愛知県立高等学校の教員55名				
相談内容等	・外国人生徒が在籍する県立高校は、支援員や小型通訳機を活用し、外国人生徒に対して、学習活動及び学校生活が円滑に行われるよう努めているが、日本語指導が必要な生徒は年々増加しており、支援が十分に行き届いていない。 ・各県立高校においては、日本語指導のノウハウの蓄積が少ないため、日本語指導が必要な生徒に対して、十分な日本語指導を実施できていない。				
派遣者からの指導助言内容	・愛知県教育委員会が主催する「県立高等学校外国人生徒支援担当教員連絡協議会」において、東京都の取組や東京都立六郷工科高等学校の取組、外部機関との連携等を取り上げながら、日本語指導が必要な生徒に対する適切な支援の在り方についてご講義をいただいた。 ・その後の班別協議では、「日本語を母語としない生徒や保護者とコミュニケーションを円滑に行うためには、敬体(です、ます)で話すこと、やさしい日本語を用いることのできるだけ短い文で説明することが効果的である」、「生徒が普段使っているスマートフォンの翻訳アプリを活用することで、生徒や保護者と円滑にコミュニケーションをとることができる」等のご助言をいただいた。				

(様式3)

相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<ul style="list-style-type: none"><li>・アドバイザーの講義を受けて、日本語指導が必要な生徒の受け入れ体制や日本語指導の実際について、各学校の外国人生徒支援担当教員の理解が深まった。</li><li>・東京都立六郷工科高校の取組例を具体的に教えていただいたことで、参加者からは「今後の支援の中で工夫し、生かしていきたい」という感想があり、意欲向上につながる協議会となった。</li><li>・アドバイザーからの指導助言の内容を、今後の県立高校への支援に生かす。</li><li>・外国人生徒教育支援員や日本語教育支援員を必要な県立高校に配置し、生徒を適切に支援できるよう引き続き努める。</li></ul>
--------------------	---

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。